

き消すかのように塗りつぶした絵を  
掲示してしまったこと。その時には  
皆と同じにさせなければということ  
だけで、子どもの気持ちを理解する  
余裕するなかつた自分を今思うと、  
「ごめんさい」と言う気持ちで一杯  
である。

今般の教育要領の改訂で幼児自ら  
取り組む遊びを大切に保育へ転  
換したが、長年培ってきたものを  
すぐ変えることは容易なことではな  
かつた。何か学級でまとまったこと  
をしていると安心という気持ちが先  
行して、ダンスやゲームなどを皆で  
楽しむ活動として取り入れていた。  
発達段階や遊びの傾向を考慮してい  
たつもりだが、園長から見れば不自然に映つたのであろう。指導案の片  
隅に「幼児一人一人が楽しんでい  
るか」と赤ペンで書き込まれていた。  
その時の私は「子供は一緒にやって  
いるのに、どうして」と疑問を持つ  
たが、「親の意見と冷酒は後でよく」  
の如くであった。幼児に何かをさせ  
ようとするのはなく、今、何をし  
たいのかという気持ちで幼児の動き  
や遊びを見たとき、一人一人に対す  
る自分の願いが見えてきた。自分の  
心にゆとりが感じられるようにな  
り、幼児の育ちを信じて待つことが

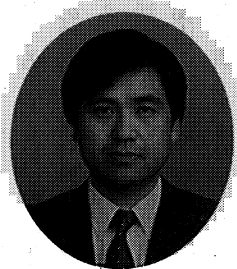
できると、自然に学級の中で皆が一  
緒に取り組めるようになってい  
るとに気づくことができた。

毎日の生活の中で、一人一人の言  
動やまなざしの中から教師に発信し  
ているシグナルを敏感に感じ取り、  
共感できる教師になるために、自分  
の姿勢や行動を絶えず反省しなけれ  
ばならないと感じている。

幼児教育は木に例えると、記憶に  
すらなくなるような目立たない根っ

## 長年の夢

小林貞雄



この部分だと思ふ。しかし、幼児に  
とって幼稚園は初めての社会生活の  
場であり、先生は初めて出会う家族  
以外の大人である。そこで営まれる  
生活は正に人間の根っこを形成して  
いることを思うと、責任の重さを感じ  
る。「教育は人なり」と言われるが、  
日々反省をしながら、自分の後姿に  
責任の持てる教師になるように努力  
をしていきたい。

(川俣町立富田幼稚園教諭)

私には、二十年以上持ち続けている  
「夢」があります。それは、大学

生の時、教育社会学という講座を受  
講して芽生えたものです。はじめは、  
どのような内容を学ぶのか、全然わ  
かりませんでした。講義を受けて  
いくうちに、いろいろな調査を通し  
て教育の中身を分析していくもので  
あることを知り、大変興味を覚えま  
した。教育社会学の手法を活用し、  
子供たち一人一人に充実した学校生

活がおくれるようにするのが私の長  
年の夢です。

幸いにも、最近教育社会学を大学  
で再度研修する機会に恵まれ、授業  
分析や子供たちの行動分析、調査の  
仕方などについて、さらに詳しく学  
ぶことができました。

その内容の一つは、コミュニケーション  
論で、授業の中でどうしたら  
子供たち同士が分かり合えるか、授  
業が深まらないのはどこに原因があ

るのかを、教師と子供、子供たち同  
士の意見や発表内容など、言語を媒  
介にして追求、分析していくもので  
す。二つには、子供たちの人間関係  
を生育歴や校内、校外での生活から  
分析していくものです。三つには、  
学校の全領域にわたり、子供たちの  
行動は何によって規定されているの  
かを、日常の観察やインタビュー形  
式での聞き取り調査をもとに分析、  
研究していくものです。

この研究を通して、子供たちの話  
し合い活動では、意見や発表内容な  
ど、個々の考えを尊重して聞いた  
り、質問したりすることによってお互い  
がよく理解し合えることや子供たち  
の行動には、物の見方や考え方のも  
とになる背景や子供たち同士のルー  
ルなど目に見えないコードがあり、  
そのコードが変わらないと子供たち  
の行動は変わらないということが分  
かりました。

この研究の成果を生かすため、授  
業では、子供たちの発表の場を確保  
し、発想や考えを大切にして授業を  
進めたり、評価結果を分析して学習  
過程や支援の仕方など、改善に努め  
ています。また、生徒指導では、問  
題行動の現象面にだけ目を向けるの  
ではなく、行動傾向やその背景を記